

第73回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成27年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

周易に関する私的検討のその後

発表者：平勢隆郎教授（東京大学）

発表者は、かつて『左傳の史料批判的研究』（1998）の中で、『左傳』の卦變から虞翻の易注の卦變への複雑化を論じ、包山楚簡の數字卦にも言及しました。いわゆる數字卦は、陽爻、陰爻、陽爻から陰爻への爻變、陰爻から陽爻への爻變の四種があるにすぎません。また『左傳』では六十四卦の上下二つの八卦のうち、一方のみが變化します。虞翻では少なからず上下二つの八卦が同時に變化します。八卦方位は兌（澤）・震（雷）を天地の境、乾（天）・坎（水）・艮（山）を天、坤（地）・離（火）・巽（風）を地に振り分けることができますが、『左傳』は天→地、地→天の卦變を語り、虞翻易注では天→天、地→地への卦變もあります。坎（水）は地に惹かれ、離（火）は天に惹かれます。

第73回目を迎えた今回の研究会は、平勢隆郎教授（東京大学）が担当し、上博楚簡『周易』、精華簡『筮法』の存在が知られる現在、何がどう語れるかを論じます。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

日時：2015年5月23日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館2階216教室

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 池田知久 電話 03-3926-8568